

Protect A Generation: The impact of COVID-19 on children's lives
この世代を守るために～新型コロナウイルス感染症が子どもたちに与える影響
日本語概要

「私たちは子どもとしての時間を過ごせていません」 12歳の少女、シリア

世界の子どもたちのおよそ99%、あるいは23億人の子どもたちが、新型コロナウイルス感染症対策として何らかの措置を講じている186ヶ国で暮らしています。子どもたちがこのウイルスから直接的な影響を受けるリスクはそれほど高くありませんが、直接的ではない形で、子どもたちの格差を助長するような影響をもたらしています。

最も周縁に追いやられ、権利をはく奪された子どもたちが最大の被害を受けており、既に存在する格差がより拡大しています。持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けてこれまで子どもたちのために進められてきたことが、いま阻害されている、あるいはこれまでの成果が失われようとしています。多くの子どもたちに、感染症の世界的大流行（パンデミック）は、壊滅的な影響をもたらすでしょう。

セーブ・ザ・チルドレンは、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下において、子どもたちや親・養育者に対して、世界的な規模で調査を実施しました。調査によって、パンデミックが保健医療や教育へのアクセス、家庭の収入、子どもたちの安全にどのような影響をもたらしているのかを調査し、そして子どもたち自身がこれらのことについてどう考えているのか意見を聞きました。

この調査は、新型コロナウイルス感染症発生以降現在までで、最も規模が大きく、最も包括的な、子どもたちとその家族に対する調査となっています。1万7,565人の親・養育者、そして8,069人の11歳から17歳の子どもたちが調査に参加しました。調査は、セーブ・ザ・チルドレンが活動する37ヶ国において事業に参加し、かつ携帯電話あるいはインターネットにアクセスできる人々を対象としました。

この報告書は、上記調査により明らかになったことをまとめたものであり、パンデミックにより世界中の子どもたちが多くの副次的な影響を受けていることを明確にしています。特に最も周縁化され、権利をはく奪された子どもたちに対する影響は、彼らの人生を変え、また壊滅的な被害を与える可能性があります。

子どもたちが求める行動

子どもの権利は、国連子どもの権利条約（UNCRC）で謳われているとおり、危機下にあっても尊重され、守られ、そして実現される必要があります。今回の調査に参加した子どもたちは明瞭かつ明確に、政府などのリーダーたちに対し、自分たちの権利の実現を求めています。

子どもたちは、教育に対する行動を起こすことを求めています。学校の再開、遠隔教育の改善、感染症への対応の迅速化、そして保健医療サービスへのアクセスの増加なども含みます。また、義務履行者に対し、社会的保護を提供することで、より貧しい家庭を優先することも望んでいます。

また、子どもたちは義務履行者に対し、新型コロナウイルス感染症の結果として増加している暴力から自分たちを保護することも求めています。子どもたちは自分たちに影響のある物事に関して公的な機関が意思決定をする際には、体系だった方法で自分たちの意見を聞かれる権利や参加する権利を尊重するよう、要求しているのです。

すべての人に保健医療と栄養を

新型コロナウイルス感染症以外の保健医療が後回しにされたことや、ロックダウン（都市封鎖）、ウイルス感染への恐怖の結果として、多くの子どもたちが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間に予防可能な疾病が原因で死亡すると予測されています。食料や家計が不安定であることも、子どもたちの良質な栄養へのアクセスを阻害しており、栄養不良率の悪化が見込まれています。

調査対象者の 89%が、新型コロナウイルス感染症により保健医療サービスや医薬品、医療用品へのアクセスに影響があったと答えています。この割合は、慢性的な疾病や障害のある子どもたち、貧困家庭では上昇しています。

さらに、**調査対象者のほぼ 3分の2（62%）が、肉や乳製品、穀物、果物、野菜を家族のために確保するのが難しいと答えました。**その主な理由は費用で半分以上（52%）が、食料があまりにも高いと答えています。

教育を守ろう

世界中で 16 億人以上の生徒が、パンデミックにより休校に直面しています。セーブ・ザ・チルドレンは、こうした前例のない教育の中断により、少なくとも 1,000 万人の子どもたちが学校に戻ることができず、特に少女や最も周縁化され権利をはく奪された子どもたちが甚大な影響を受ける、と予測しています。学校に戻った場合でも、何ヶ月もの学びが失われ、彼らの学びが大きく妨げられることとなります。遠隔教育に必要なオンラインシステムにアクセスできず、また家庭における支援を受けることが少ない、最も貧しい子どもたちが特に影響を受けるでしょう。

調査対象の 10 人に 8 人以上の子どもたちが、自分はほぼ何も学んでいない、もしくは何も学んでいないと感じていました。貧困家庭の子ども、避難を余儀なくされた子ども、そして少女の場合、この割合は上昇します。政府による遠隔教育の 60%以上がオンラインで実施されているにも関わらず、**遠隔教育のためにインターネットにアクセスできると答えた子どもは、貧困家庭では 1%未満でした。**

貧困家庭の子どもの40%が、宿題の手助けが必要であるにもかかわらず、誰からも助けてもらっていないと答えています。親や養育者の3分の2が休校になって以降、先生から子どもたちに全く連絡がないと答えていることも懸念されます。学びにおいて手助けを得られない子どもたちは、学校に戻った時にさらに取り残されることとなります。

子どもの貧困と社会的保護

新型コロナウイルス感染症による公衆衛生上の危機は、すぐに経済的な危機へと波及しました。セーブ・ザ・チルドレンは、貧困家庭に暮らす子どもたちの数は、2020年だけで1億1,700万人増加する可能性があるとして予測しています。子どもの貧困は、経済成長や社会資本を損なう主要な要因となると同時に、貧困が原因で、子どもたちは保健医療や教育といった必要不可欠なサービスにアクセスできなくなります。また、児童労働や児童婚を含む、暴力を受けるリスクが高まる結果となります。

調査への回答によると、4分の3以上の家庭が、パンデミック以降に収入が減少したと答えています。貧困家庭の82%が収入減を経験しており、貧困と分類されない家庭の70%を上回り、貧困家庭の方がより収入減となっていることがうかがえます。都市に暮らす家庭もまた、地方と比べ収入減の影響を受けました。農村地域に暮らす調査対象者の33%が職を失ったと回答していますが、都市ではそのおよそ2倍にあたる61%にのぼっています。

多くの国や地域において、感染症以降、社会的保護の対策がとられてきていますが、保護が提供される対象は不十分です。経済的な損失を被った調査対象者の70%が、政府からの支援を受けられていないと答えています。

子どもたちを暴力から守る

子どもに対する暴力は、新型コロナウイルス感染症が拡大する前からすでに広く発生していました。世界では、毎年2歳から17歳の10億人の子どもたちが、身体的、性的、そして精神的な暴力やネグレクトを受けています。新型コロナウイルス感染症により、子どもに対する暴力のリスクが悪化する恐れがあり、特に少女や貧しい子ども、障害のある子ども、そして脆弱な状況下で暮らす子どもなど、すでに暴力を受けるリスクの高い子どもたちにとっては深刻です。

パンデミック以降、家庭内における身体的あるいは精神的な暴力があったと答えた子ども、親・養育者がいる家庭が、3分の1近く（32%）にものぼりました。

収入の減少や休校により、こうした暴力は増加しました。暴力があったと子どもから報告のあった家庭の19%は、新型コロナウイルス感染症により収入のすべてあるいは大部分を失っていました。家庭内での暴力

があると子どもから報告のあった家庭の割合は、休校期間中が17%で子どもたちが学校に通っていた時(8%)と比較すると、倍増しました。

また、この調査の対象者からは、家庭内でのジェンダーの役割によって少女により悪い影響が出ているとの指摘もありました。およそ3分の2の少女(63%)が、感染症が流行して以降、家庭内でさまざまな仕事が増えたと答えており、半数以上(52%)が兄弟姉妹などの世話にかかる時間が増加したと答えました。

提言

セーブ・ザ・チルドレンは、すべてのステークホルダーに対し、協力してこの世代の子どもたちを守ることを呼びかけます。

すべての国がこのパンデミックに効果的に対応し、子どもたちにとってより良い復興となるよう、国際および国内の双方のレベルにおいて、行動を起こす必要があります。

各国政府、ドナー、国際機関、そしてその他のあらゆるステークホルダーが行動をとり、すべての子どもたちに対して、以下を確実に実行するべきです。

- ・ 強固でレジリエント(柔軟性がある)、かつ公平な保健・栄養制度へのアクセスを確保すること。それらの制度は、常に継続して、定期的に子どもたちにサービスを提供する制度である必要があります。
- ・ 学校に通えない場合でも、学びへのアクセスを確保し、安全になった場合は子どもたちが学校に戻るようにすること。
- ・ 包摂的で、レジリエントな社会的保護の制度にアクセスできるようにすること。
- ・ 暴力から守り、子どもの保護サービスへのアクセスを確実にすること。ジェンダーに基づく暴力やメンタルヘルスサービスも含みます。
- ・ 国連子どもの権利条約で示されているように、意思決定プロセスにおいて子どもたちの意見が尊重され、かつ子どもたちが参画できるようにすること。

すべての提言は、報告書本文をご参照ください。